



発行責任者

堤 敏博

## 自己の可能性

校長 堤 敏博

夏休みに入る直前の全校集会における校長講話の一部を紹介します。

イチロー選手が、小学校6年生の時に書いた「ぼくの夢」という作文の一部を紹介します。

ぼくの夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるためには練習が必要です。ぼくは、3歳のときから練習を始めています。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。そして中学、高校と活躍して、高校を卒業してからプロに入団するつもりです。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。そしてぼくが一流の選手になったら、お世話になった人に招待状を配って応援してもらうのも「夢」のひとつです。とにかく1番大きな夢は、プロ野球選手になることです。

6年生の時に描いた夢のほとんどが現実になっていることに驚きます。イチロー選手は、最初から特別な人ではなく、夢を追いつけることで特別な人になったのだと思います。将来の自分を想像し、そこからさかのぼって今何をすべきかを考えて行動、練習、勉強しているのです。そこには「無理」とか「できない」という疑いは一切なく、「実現するにはどうすればいいか」という一途な追求があるだけです。だからこそ夢が叶うし、目標が達成できるのだと思います。

ところで、ノミは自分の大きさの150倍ジャンプできると言います。2ミリの大きさだと30センチぐらいジャンプできるのです。そのノミをコップに入れます。ノミのジャンプ力からすれば軽くコップを跳び越えることができますが、そのコップにふたをかぶせるとノミはコップの高さまでしか跳ぶことはできません。しばらくそうしておくで、コップのふたをあけても、そのノミはもうコップの高さまでしか跳べなくなっているそうです。自分はここまでしか跳べないと限界を決めてしまい、これ以上跳ぶのは「無理」と思い込むからです。ところが、別のノミをもう一匹、コップに入れると、「飛べないノミ」は「飛べるノミ」の姿を見て自信を取り戻し、またチャレンジをしてコップ以上の高さまで飛べるようになるのだそうです。ただ、中には飛べるノミの姿を見ても、何の刺激も受けず、飛べないままのノミもいるそうです。

自己の可能性を広げる人は、自分の強みに磨きをかけて「出来ること」の範囲を増やしなが、時代に合った生き方を模索している人だと思います。それに対して、自己の可能性を狭める人は、自分で限界を作り、「自分はこういう人」「これしかできない」「これは自分に向いていない」と自分を限定し、新しいことにチャレンジしようとしなない人、さらに、周りにチャレンジしている人がいるのに、その刺激を全く受けつけない人ではないでしょうか。

みなさんの中には、部活動やバラモンなどで、すでに全国の舞台を経験し、全国で1位にあたる賞を受賞した人もいます。自分の進路実現、将来の夢の実現のため確実に歩を進めている人もいます。では、その人たちは特別なのでしょうか。もちろん、そうなる資質も多少はあるのかもしれませんが、それ以上に夢をあきらめない姿勢、「無理」とか「できない」とか考えないで「できる」と信じて努力を継続したからこそ、今の姿があるのだと思います。「自分ができることは何か」「将来、自分は、誰のためにどのようなことで貢献できるか。」「そのために今できることは何か」を考えましょう。

夏休みに入る直前の全校集会における校長講話の一部を紹介しました。お子様との話題にしていただければ幸いです。



## スポーツコース マリンスポーツ実習 7/10~11

スポーツコース1・2年生が、マリンスポーツ実習を実施しました。1日目は、校内で救急救命講習、バレーボール大会、カレーライスの調理を、2日目はカヌー実習を行いました。五島の美しい海上を約4kmカヌーで散策しました。どの実習も生徒が積極的に参加し、自然の雄大さや厳しさ、仲間と協力することの大切さ、命の尊さを学ぶことができました。また、このマリンスポーツ実習は例年、地域の方々のご協力で成り立っています。感謝の気持ちを胸に、今回の実習を今後の生活に活かしてほしいと思います。



## 五高祭テーマ発表 6/18 (火)

### 『創~Beautiful Harmony』

みんなで1つのものを創り出す“創造”から今回のテーマを設定しました。サブテーマの「Beautiful Harmony」は新元号である令和の英訳であり、クラスや部活動で調和のとれたものを創りだしてほしいという思いがあります。五高祭実行委員は全校生徒のみなさんに、未来に希望を抱いてもらえるような五高祭を企画・運営していきます。今年度の五高祭も、是非ご期待ください。

## 体育祭テーマ発表 7/8 (月)

### 「青春 ~輝け私たちの色~」

このテーマには、青春という学生のときにしか過ごせない時間の中で、五高生一人一人が自分の個性（色）を輝かせてほしいという体育祭実行委員の思いが込められています。体育祭は9月1日（日）です。これから、3年生を中心に地域の方々も楽しめる体育祭になるよう準備を進めていきますので、たくさんのご参観をよろしくお願いいたします。

	赤団	青団	黄団
3年	3・5組	1・6組	2・4・7組
2年	2・3・6組	5・7組	1・4組
1年	1・6組	2・5組	3・4組

## 第1回校内競技大会 7/8 (月)



## バラモンキングボランティア 6/23 (日)

福江島全体をあげて毎年行われる五島長崎国際トライアスロン大会に、生徒・教員あわせて232名がボランティアとして参加しました。それぞれの担当場所で積極的に活動し、出場者の方々をしっかりとサポートしました。



	優勝	準優勝
男子バレー	3-2	3-5
男子ソフト	3-3	1-5
男子卓球	2-1	3-4
女子バレー	3-2	3-3
女子サッカー	対カヌー合同	1-6
女子テニス	1-6	2-7

## 【石城会サポーター基金贈呈式】6/19 (水)

旧県立五島高等女学校の卒業生（1943年卒）である才津春江さんから、本校へ10万円の寄付贈呈がありました。才津さんが管理していた同級生の会費が長年使われないうままだったそうです。今後の運営も厳しいため同級生の同意を得て、部活動遠征費等に援助金を頂いている石城会サポーター基金に寄付して下さいました。大切に使用させていただきます。



## 1年生普通科 バラモンセミナー 7/9 (火)

1年生では、五島内外で活躍されている方々に来校いただき、講演会を実施しました。今年度は、建設業協会、五島市観光業協会、五島海上保安署、五島警察署、農協（JA五島）、長崎大学病院高度救命救急センター、戸田建設、親和銀行、九州電力、長崎新聞の方々に講話をしていただきました。「仕事を通じて五島に貢献するには？」といった職業や生き方に関する内容や「五島の太陽光発電について」などの身近な話題、「災害派遣や安楽死について」といった現代の医療問題に踏み込んだ話など、生徒が進路を考える上で大変有意義な講演会となりました。快く講話をして下さった皆様方に、深くお礼申し上げます。

## 衛生看護科 1年生施設実習 7/11~12

衛生看護科1年生は、島内の老人施設で2日間の実習を行いました。初めは緊張と戸惑いの表情でしたが、入所者さんや職員の方々に支えられて、後半は多くの生徒が笑顔で入所者の方と接することができました。様々な症状を持つ高齢者とのコミュニケーションは想像以上に困難だったようで、2日間を通して悩み、話し合いました。今回は看護学生としての姿勢、高齢者の生活や接し方等について多くを学び、充実した実習となりました。快く受け入れて下さった入所者様、施設の方々に深くお礼申し上げます。



## ★インターハイ(陸上)、全国総合文化祭(新聞・かるた・写真)の抱負★

### 新聞部 7/28~8/1 (佐賀県)

総文祭では優れた作品を見ることができることに加え、他校の生徒と一緒に取材に行き新聞を作り、交流することもとても楽しみです。このような機会を得られたこと、また、共に新聞作成に励んできた部員たちに感謝して、全国総文祭でしか得られないものを掴んできたいと思います。



【出場者】3-1 吉田 楓

### 陸上部 8/4~8/8 (沖縄県)

陸上競技は各種目、都道府県予選大会に全国の約5000人が出場し、インターハイに出場する66名の中から日本一を決め、8位までが入賞となります。日頃から応援して下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、全国の舞台上で自己ベスト記録を更新できるよう、全力を尽くします。

#### 【出場者】

3-6 小島一斗 (走り幅跳び、110mH)  
3-6 平野鈴葉 (砲丸投げ)  
2-6 峰原舞 (円盤投げ)  
2-7 高木里菜 (200m)



### 百人一首かるた部 7/30~8/1 (佐賀県)

長崎県チーム(海星・長崎北と合同)の目標である予選リーグ突破を達成できるよう、一人一人が県の代表とwしての自覚を持って頑張ります。試合を通して多くのことを学び、今後の練習や試合、大会に生かしていきたいです。応援よろしくをお願いします。

#### 【出場者】

3-5 平山凌子  
2-2 磯沖千陽  
2-5 村井マリア  
2-7 中村諒香



### 写真部 7/27~7/31 (佐賀県)

期間中は有田の陶器市街での撮影会や、全国各地の高校生との交流行事にも参加します。同じ年代の高校生の皆さんと作品を撮り、交流する中で多様な感性に触れ、刺激を受ける有意義な5日間にしたいと思います。

【出場者】3-1 中村信太郎

